



愛の手で、あなたをつつむ 被害者支援
会報 ふくしまの空

発行 公益社団法人ふくしま被害者支援センター
〒960-8002 福島市森合町14-6
事務局 TEL&FAX 024-533-7830
ホームページアドレス <http://www.vsc-fukushima.net/>

被害者支援の活動について

福島県警察本部長 児嶋 洋平



犯罪や事故による被害者の方々を支えるため、日々御尽力されている公益社団法人ふくしま被害者支援センターの職員の皆様、そして、その活動を支えておられる会員の皆様には、平素より、警察の犯罪被害者支援業務に御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

また、昨年も新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染防止対策をとりながらの支援が求められたことから、ふくしま被害者支援センターの職員の皆様には御苦労の多い一年であったことと思われ、重ねて感謝を申し上げます。

さて、県内の治安情勢につきましては、皆様のお力添えを頂きながら、犯罪や事故のない安全で安心な社会の実現を目指して様々な警察活動を推進した結果、刑法犯認知件数が19年連続で減少したほか、交通事故の発生件数及び死傷者数も減少いたしました。

しかしながら、依然として、殺人や強盗などの凶悪事件や悲惨な交通事故が発生し、長期にわたって身体的、精神的及び経済的に苦しまれる被害者やその御家族が増え続けていることには変わりはありません。

そこで、県警察では、こうした現状を踏まえ、被害者やその御家族に「被害者の手引」を交付し、刑事手続等の流れや利用できる支援制度、相談窓口等を分かりやすく説明するとともに、捜査の進捗状況等の連絡、病院等への付添い等のほか、各種公費負担制度の運用、臨床心理士によるカウンセリング等、様々な支援を行っております。

また、ふくしま被害者支援センター等と連携の上、被害者に優しいふくしまの風運動に取り組み、「命の大切さを学ぶ授業」や「ミニ講座」など、犯罪被害者の実態や被害者支援の重要性・必要性について、県民の理解を深めるための活動を推進しております。

一方、本県においては、昨年10月に福島県犯罪被害者等支援条例が制定され、被害者支援に対する県民の関心が高まりつつありますが、この動きを社会全体で犯罪被害者等を支える気運の醸成へとつなげていくことが重要であります。

その観点では、昨年、命の大切さを学ぶ授業を受講した田村市立船引中学校3年生のお二人が、警察庁主催「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクールにおいて受賞するなど、被害者支援の重要性についての若い世代の理解が着実に進んでいることを嬉しく思う次第であります。

今年も新型コロナウイルス感染症の脅威が続くと考えられるところ、そのような状況下でも継続的で適切な被害者支援を行い続けるため、県警察とふくしま被害者支援センターのみならず、関係機関・団体との連携協力の強化に基づく様々な工夫や配慮が必須となります。

したがいまして、県警察においては、今年もきめ細かな途切れのない支援を行えるよう、ふくしま被害者支援センターや関係機関・団体とともに、一層の被害者支援の充実・強化に取り組む考えでありますので、引き続き皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と、ふくしま被害者支援センターの更なる御発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

被害者支援活動の実施状況 2021年1月～12月分

1 総支援件数

612件

■電話 483件 ■直接支援 105件 ■面接 24件

2 相談の内容

■電話

被害内容	件数	被害内容	件数
殺人(傷害致死)	14	財産的被害	6
強姦性交等	119	DV	24
強制的わいせつ	68	ストーカー	6
その他の性暴力	125	虐待	4
暴行・傷害	17	その他	90
その他の身体犯	5	計	483
交通事故	5		

■直接支援

支援内容	件数
警察付添	5
裁判付添等	68
検察庁付添等	6
法律相談付添	5
病院付添	5
自宅訪問	2
その他	14
計	105

■面接

支援内容	件数
強姦性交等	18
その他の性犯	2
その他の身体犯	2
その他	2
計	24

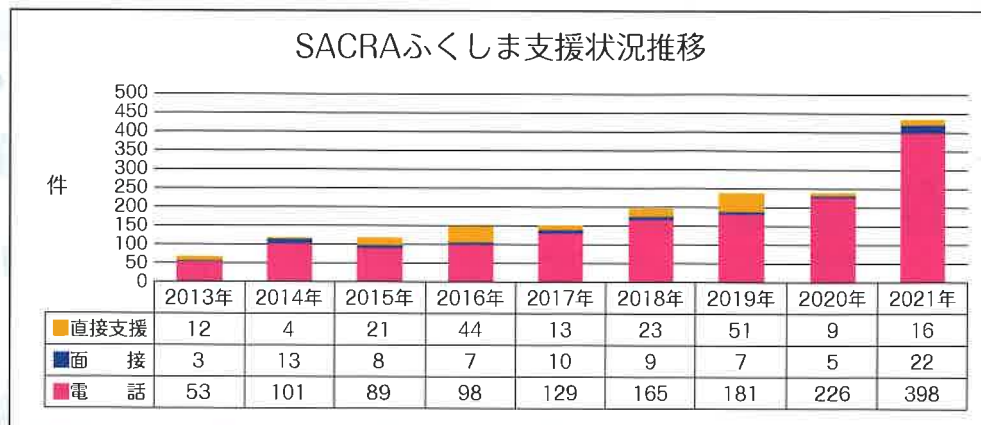
上記の内「SACRAふくしま」の相談状況 2021年1月～12月分

1 総支援件数

436件

■電話 398件 ■直接支援 16件 ■面接 22件

2 SACRAふくしま支援状況推移



被害者に優しいふくしまの風運動 “支援の輪を広げるつどい2021”開催

11月27日(土)福島市とうほう・みんなの文化センターにおいて開催しました。

このつどいは、当センター・福島県・福島県警察本部の共催で行われ、今回で12回目を迎えました。一人ひとりが身近な問題として犯罪被害について考え、地域社会全体で犯罪被害者の方々を支えていくことが大切です。

そのために、犯罪被害者の苦しみや悲しみ、地域における被害者支援の必要性や重要性を理解し、1日でも早く再び平穏な生活を取り戻していただけるようにすることを目的としています。

基調講演では、「グリーンパートナー歩み」代表の本郷由美子氏に「いのちの重さを見つめつづけた20年～愛(かな)しみとともに生きる～」をテーマに講演していただきました。

本郷氏は平成13年、大阪教育大学附属池田小児童殺傷事件で7歳の愛娘を亡くされました。

現在は、事件や事故の被害者などに寄り添う活動のほか、いのちの重さ・大切さを伝える講演活動などに邁進されています。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、「犯罪被害者を支える地域社会であるために」をテーマとして、本郷氏にコメンテーターを務めていただき、福島県被害者等支援連絡協議会会長野口まゆみ氏・県弁護士会宮下朋子氏・当センター理事長・当センター専務理事で討議しました。

※新型コロナウイルス感染症対策として入場を制限したため、支援の輪を広げるつどい2021の様子は、期間限定で県警YouTubeチャンネルにより動画配信されました。

●命の大切さを学ぶ授業実施

当センターでは、被害者に優しいふくしまの風運動の事業の一環として県警察と共催し、県内の中学・高校生を対象に「命の大切さを学ぶ授業」を実施しています。

この事業は、犯罪・交通事故の被害者遺族の方に講演していただき、生徒達が改めて命の大切さを学び、犯罪や事故を起こしてはならないという意識の向上を図る機会になっています。

今年度は、県内の中学校11校・高校5校で実施しました。



県立岩瀬農業高等学校

令和3年度「大切な命を守る」全国中学・高校作文コンクールにおいて受賞した作文を、次ページに掲載しております。

受賞者は、次のとおりです。

【警察庁長官賞】 高橋 未来(田村市立船引中学校3年)

【警察庁犯罪被害者支援室長賞】 鹿又 由菜(田村市立船引中学校3年)

警察庁長官賞



『命の大切さ』

田村市立 船引中学校 3年
高橋 未来

私は幼稚園最後の夏休みに、いとこのお兄ちゃんを交通事故で亡くしました。いとこは、家族旅行の帰りに高速道路で大型トラックに後ろから追突され、亡くなったのです。

いとこが事故に遭い、亡くなったと母から知らされたのは、真夜中でした。私の両親は、急いで荷物をまとめ、私を抱きかかえ慌てて車に乗り込みました。そして、事故が起きた静岡県に向かいました。いとこのお葬式の準備をしている時に私の母が、

「全然成長していないと思っていたのに、もうこんなに背が伸びていたんだね。」

と言っていたことを覚えています。

事故から八年が経った今でも、いとこのお墓参りにはたくさんの友達が来てくれています。みんなに愛されていたいとこは、今も私の心の中で生き続けていますが、小学四年生のままです。

いとこのお母さんは、つい最近まで自分が乗った車の後ろをトラックが走っているだけで、「怖い、怖い。」

と言ってパニックになっていました。私は少し考えすぎなのではないかと思っていました。しかし、今回の講演を聞いて、このようなことが二次被害にあたるもので、事件や事故で被害に遭った人は誰もが経験することだと知り、申し訳ない気持ちになりました。

私は帰宅してから、母と交通犯罪について話し合いました。私のいとこが亡くなった事故は「禁錮二十日」だったそうです。大好きないとこが亡くなったのに、あまりにも短すぎると思いました。しかし、母によると、交通犯罪は、最高でも五年くらいだそうです。私は大切な息子を失って、さらに二次被害でも苦しんで辛い思いをしていたいとこのお母さんのことを考えると、交通犯罪の刑の軽さに何とも言えない気持ちになりました。

最近では、あおり運転による事故も増加しています。現在の法律には、ドライブレコーダーの設置義務がありません。自分にあおっているつもりがなくても、相手からするとあおられていると錯覚することもあると思います。少しでも交通事故を減らすために、ドライブレコーダーの設置義務が必要だと思います。また、双方の意見が食い違い、えん罪などが起きないようにするためにも良いのではないかと、母との話し合いで感じました。

私のいとこのお母さんや家族は、大切な人を亡くして大変苦しみ、辛い日々を送っていました。これからは、そのような人を一人でも減らさなければなりません。一人一人が交通ルールを守り、運転手は常に優しい運転をするべきです。学校や地域での呼びかけはもちろん、法律を変えるなどして、社会全体で交通事故を減らすよう取り組む必要があると思います。そして、一人一人の大切な命をみんなで守っていきたくて思いました。

警察庁犯罪被害者支援室長賞



『命の大切さを学んで』

田村市立 船引中学校 3年
かのまた 鹿又 ゆな 由菜

私が講演を聞いて率直に思ったのは「もし家族や友人など大切な人が被害者になったら何をやるだろう。」ということだ。私はまだ大切な人を失ったことがない。だが、被害者遺族の方の手記を聞くうちに、亡くなった方が生きていて普通に過ごしていたこと、亡くなってからご遺族の方々が今まで過ごした日々を想像すると胸が張り裂けそうになる。また、周囲からの思いやりのない言動や罪悪感で苦しんでいる人たちが大勢いることを知り、私が被害者やその家族の方に思いやりのない言葉をかけてしまうのではないかと思い、怖くなった。被害者や家族の方は、普段通りに接してくれた方が良いのだそうだ。

また、今回初めて被害者支援室というものがあることを知った。心に傷を負ったときに被害者支援室など、誰かにただ話を聞いてもらおうと少しかもしれないけれど、被害者やその家族の方たちの気持ちが楽になれるのかなと思った。さらに、全国で千件もの殺人事件が起こっていることを知り、何もできないことに無力感と怒りを覚えた。なぜその人を殺してしまったのか。どんな理由があっても人を殺すのは到底許されることではない。殺人などで亡くなる人が一人もいなくなることを願っている。

そして、講演後に配布されたパンフレットに載っていたお兄さんを亡くされた妹さんの手記を読んだ。そこには、自分がかけてもらって嬉しかった言葉として「無理しないで。」「泣きたいときには、思う存分泣いたらいいよ、嫌ならやめちゃえ。」という言葉が挙げていた。しかし一方で負担になるのは、「頑張れ。」「お兄さんの分まで。」という言葉だとしていた。きっとこの妹さんも、生きていくことに大きな罪悪感があったのかもしれない。そんな時に私たちにできることは、同情するのではなく共感することだけだ。決して可哀想だと思うのではなくて、相手の心をそのまま受け止めて同じ気持ちになる。私たちは、その人の力を信じて支えることしかできない。どんなに時間が経過しても、元には戻らないし、忘れることはないのだ。

最後に、初めて被害者の家族の方の気持ちに触れたことで、どのように思って過ごしているのかを知ることができた。以前、私は、佐世保市で起きた事件を調べたことがあり、亡くなられた女児生徒のお父様の手記が読まれたときに、亡くなった子が当日もいつも通りに家を出ていったことを知り、そのいつもの光景が最後になってしまったのだと思うと、辛い気持ちになった。お父様の心情を知ると、この子の分まで生きようという、この命を大切にすることが湧いて来る。

今回の講演を聞いて、改めて大切な人を失う人がいなくなってほしいと感じた。そのために、被害者やその家族の方の声がもっと伝わってほしいと思う。

－ センターニュース －

●各種研修会を開催

定期的に開催していた研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できない期間がありました。が、沈静化した時期に各種研修会を開催しました。

インテーク会議では、県警・大学院教授・弁護士・公認心理師・臨床心理士を講師に招き、ひとつひとつの相談や支援への対応方法についてアドバイスを頂きながら、支援が適切にできるように学びました。



▲全体研修の様子



▲インテーク会議の様子

日時	研修テーマ	講師	内容	参加者
4月23日	第1回インテーク会議	県警・大学院教授・弁護士 公認心理師・臨床心理士	事例検討	24名
5月21日	第2回インテーク会議	県警・大学院教授・弁護士 公認心理師・臨床心理士	事例検討	21名
5月28日	第1回全体研修会	公認心理師・臨床心理士	相談場面における 傾聴技法	15名
7月8日	第3回インテーク会議	県警・大学院教授・弁護士 公認心理師・臨床心理士	事例検討	21名
7月15日	第2回全体研修会	福島県立医科大学教授	精神的に不安定な方からの 相談への対応方法	21名
10月7日	第4回インテーク会議	県警・大学院教授・弁護士 公認心理師・臨床心理士	事例検討	23名
10月19日	第3回全体研修会	NNVS認定コーディネーター	心理教育等について	19名
11月11日	第4回全体研修会	被害者遺族	被害者の声	20名
12月13日	第5回インテーク会議	県警・大学院教授・弁護士 公認心理師・臨床心理士	事例検討	20名

●全国被害者支援フォーラム2021

令和3年10月8日(金)に東京で開催された全国被害者支援フォーラム2021は、新型コロナウイルス感染症対策として、当センターにおいてオンラインにて参加しました。

「犯罪被害者支援の過去・現在・未来」をメインテーマに中島聡美氏による講演「犯罪被害者のメンタルヘルスとその支援・治療の発展、今後の課題」や交通事故被害者遺族による講演を聴講しました。

●令和3年度秋期全国研修会参加

令和3年10月9日(土)～10日(日)オンラインにて開催された秋期全国研修会に当センターから4名の支援員が参加し、「犯罪被害者のためのトラウマ・インフォームドケア」や「SNSに起因する児童の性被害等の現状」等について学びました。

－ センターニュース －

●福島県警察本部長来訪

9月9日(休)、当センターに児嶋洋平福島県警察本部長が来訪しました。

児嶋氏は8月30日付で警察庁から福島県警察本部長に異動となりました。

当センター理事長・専務理事とセンターの支援活動状況などについて話しました。



【支援員さんから】

支援員さんに各種研修に参加した感想やセンターの活動を通しての感想などをいただきました。

令和3年度秋期全国研修会に参加して

支援活動員Mさん

令和3年度秋期全国研修会に参加しました。今年度は、オンライン開催となり、1日目の午前、午後の分科会を聴講しました。犯罪被害者のためのトラウマ・インフォームドケアより、特質や特徴を聞き、支援に必要な資質とは何か、被害の特質、被害者の苦痛の性質を知る事が大切であると言ったことが分かりました。

支援員として、たった一言が相手を傷つけてしまうと言う事実。日常生活の中でも知らない間にもしかすると言葉で傷つけているかもしれないと思うと考えさせられる講演でした。

午後の聴講はセクシャル・マイノリティ支援のための基礎知識を学びました。今の社会は生きづらさを抱えていると言う。自分らしく生きていけない、自分本来を隠す。本人の状態を理解する為にどの様に関わっていくのか、声を出せない人達に支援員として何が出来るのか、自分自身に問う機会になりました。

微力ですが、相談者の力になれるように今後も自己研鑽して行きたいと思えます。

「支援活動に携わって」

支援活動員Sさん

性被害に遭い、日々の生活を暗澹たる思いで過ごしている方がいて、しかも何十年もその思いを抱えたままの方も少なからずいらっしゃるということがわかり、性被害の与える影響の大きさと、理不尽な性犯罪への怒りを強く感じています。

何か手助けをしたいという思いは日に日に強くなっていますが、相談電話を受けても、こんなこと聞いたら更に傷つけることにならないか、どう話しかけたら楽になってもらえるかなどあれこれ頭で考えてしまい、おっかなびっくりの自分がいます。研修で講師の方から、自信のなさそうな支援者に被害者の方は不安になり相談できないと聞き、まさに私のことだと思いました。もっと先輩の相談員の方々や研修から学んで、心を落ち着けて、被害者に寄り添える活動をしたいと思えます。

●お知らせ

被害者支援に携わって

理事長 生島 浩

2001年から福島大学院教員として心理専門職の養成に携わるとともに、法務省保護観察官の経験を活かして本センターの設立準備に携わり、2007年からは理事長を務めています。

福島県の専門機関に人材を提供してきましたが、2021年度末に福島大学院退職を迎えることとなりました(名誉教授として大学には残ります)。このたび集大成として「福島を起点とする地域心理臨床」を刊行します。

ご一読いただければ幸いです。



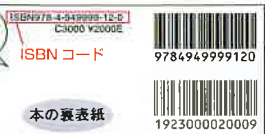
ホンデリング ～本で広がる支援の輪～

本のご寄付で被害に遭われた方々への支援のご協力をお願いいたします。

このような本が、支援につながります

★本の場合

ISBNコードが付いているものが対象です。



★CD・DVD・ゲームの場合

規格品番が付いているものが対象です。



お申し込み方法

不要になった本・CD・DVDを箱に詰める。

5冊以上



ふくしま被害者支援センターに電話する。

(024-533-7830)



宅配業者がご指定の時間に引き取りに伺います。(1回の集荷は3箱以内)



査定され、買取相当額が当センターに寄付されます。 ※発送費用は不要です。



【仕分けのツール】



提携先の(株)バリューブックスのサイトでは、スマートフォンから写真を撮ると、大まかな寄付金額が分かるサービス「本棚スキャン」があります。仕分けの際にぜひご活用ください。「本棚スキャン」へは、左記QRコードからアクセスしてください。

【寄付につながらない商品】

以下の商品はお取り扱いができませんので、送らないでください。

「ISBN」のない本／百科事典／コンビニコミック／個人出版の本／マンガ雑誌／一般雑誌／同一タイトル本11点以上／シングルCD／投票券等特典付きCD／起動しないゲーム機・ソフト／ケース及びディスクが欠品しているゲーム・DVD／規格品番がないもの／違法なもの／海賊版・コピー・サンプル／「児童買春・児童ポルノ禁止法」(関連法令含む)に抵触する恐れのある全ての商品／「警察官実務六法等の警察法令関係」の書類は、飽和状態のためご遠慮ください。

2010年以前に出版された本の多くは、価格がつけられないためご遠慮ください。

【募金箱設置のご案内】

施設関係や企業及び団体に設置のご協力をお願いしています。

ご連絡いただければ、募金箱をお届けします。



賛助会員募集中

当センターは、活動経費の多くが皆様の会費、ご寄付により運営されています。

年会費 ○ 個人…1口 2,000円より ○ 法人・団体…1口 10,000円より

福島県公安委員会指定「犯罪被害者等早期援助団体」
公益社団法人ふくしま被害者支援センター

<http://www.vsc-fukushima.net/>

〒960-8002 福島市森合町14-6 (福島中央郵便局向かい) TEL/FAX 024-533-7830

*当センターは公益法人です。会費を納めたり、寄付をした場合は税法上の優遇措置があります。
*寄付は金額を問いません。